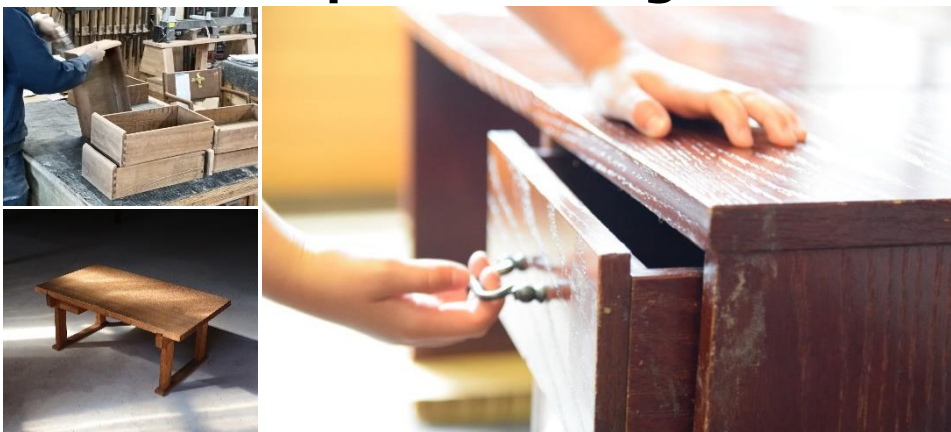




# サーキュラーエコノミー実証事業 Repair-Challenge



## Outline

廃家具を回収・修理し再び暮らしへ戻す流れを実証し、地域循環モデルの構築を目指す

## 【背景・経緯】

廃棄物処理の現場では、廃棄物として持ち込まれる家具の中に“まだ使える”品が一定量含まれている。特に滋賀県では、歴史的背景から無垢材家具など古くから大切に使われてきた家具が多く、生活環境の変化に伴い、価値のある家具が一度に排出される状況が生じている。

一方で、家具は分解や取り扱いに手間がかかり、再利用に向けた判断や仕組みづくりは容易ではない。また、リペアは資源効率の高い循環手法であるものの、一般廃棄物由来の製品を対象としたリペアについては、市場としての受け皿や事業として成り立つための条件がまだ十分明らかになっていない。さらに、一般廃棄物の取り扱いには制度的な整理が必要であるため、行政の関与が欠かせない領域でもある。

こうした背景を踏まえ、滋賀県は広域自治体としての役割を生かし、廃家具のリペアに着目した Repair-Challenge（サーキュラーエコノミー実証事業）に取り組んでいる。

## 【実施方針】

Repair-Challengeでは、日常的に廃棄物処理を担う市町と連携し、県が広域的な立場から“選別→回収→修理→販売”の流れを整理している。これら一連の工程を通じて、民間参入に先立って必要となる制度面・経済面・運用面の条件を体系的に把握し、将来的に自立した循環モデルへ発展させるための基盤づくりを進めている。

## Point① 県・市町・事業者が連携して進める循環の仕組みづくり

県内11市町（対象人口：58万人）と連携し、清掃工場などの処理現場で、一般廃棄物として持ち込まれた家具の中から再使用が見込めるものを選別し回収している。実証に向けて、市町と複数回にわたり情報交換・意見交換を行い、自治体ごとの回収方法や施設条件に合わせて工夫をしながら、継続的に廃家具を回収できる体制を整えている。選別された家具は集積拠点へ運搬し、一時的に保管しながら流量の調整を行っている。拠点では基本的な状態確認や在庫管理を行い、家具の特徴に応じて修理事業者と連携して清掃や修理をしている。リペアした家具には、回収地域や修理を担当する事業者名、家具のポイント等を記した「カルテ」を添付し、消費者が家具の価値を理解したうえで適切に利用できるよう工夫している。このように、県・市町・事業者など多様な主体が連携しながら、回収から販売までの一連の流れを構築している。

## Point② 大学・研究機関との協働による、取組の効果把握と再商品化の検討

Repair-Challengeでは、大学・研究機関との連携により、廃家具の再生に関わる工程や取組の効果について専門的な視点を取り入れている。取組が社会にもたらす影響などについて、SROI（社会的投資収益率）分析を活用して、環境・経済・社会の側面から取組の効果を継続的に確認する取組も進めている。また、家具の一部については大学と協力して再商品化の可能性も検討し、新たな活用方法も探っている。

## Point③ 販売現場からの気づきを踏まえた、今後の展開に向けた検討

修理を終えた家具は、定期的開催している販売会で店頭販売を行っている。令和7年度は5回の販売会を通じて合計1,174名が来場し、売上金額は約136万円にものぼる。特に、昭和期の家具や木の風合いが残る“レトロ家具”は一定の需要があり、こうした特徴を求める来場者も多い。

販売会では、来場者や購入者にアンケートを配布し、家具のどの点に魅力を感じたか、購入の決め手となったポイントなどを丁寧に把握している。こうした現場で得られる気づきは、扱う家具の選定や修理の工夫、販売の方法を検討するうえで参考となっている。

今後、Repair-Challengeは滋賀県内にとどまらず、関係企業・リペア家具の使い手など県内外の多様な主体を呼び込みながら循環の輪を広げていくとともに、同様の事業に挑む他地域にも持続的な循環モデルとして展開していくことを目指し、取組を進めている。

